

株式会社はてな
代表取締役社長
栗栖 義臣 氏



パートナーロボット「unibo（ユニボ）」とのデータ連携を開始

「はてなブログ」「はてなブックマーク」などのコンテンツプラットフォームサービスを提供する株式会社はてな（以下、はてな）は「KYOTO OPEN ACCELERATOR（※1）」を通じて、ロボット関連ビジネスを展開するユニロボット株式会社（以下、ユニロボット）とデータ連携しました。2018年1月には、早くも両社の機能を連携させた製品を発売。今後も取り組みの可能性を検討し、深めていくことでより有益なユーザーニーズを探り、自社の製品・サービスの発展にもつなげていきたいと期待しています。ユニロボットとの連携に至った経緯や展望について、はてなの栗栖義臣氏に聞きました。



熱意と具体的な提案がポイント

——KYOTO OPEN ACCELERATOR に参加したきっかけをお聞かせください。

当社の取締役から KYOTO OPEN ACCELERATOR の紹介があったことがきっかけです。当社はインターネットでサービスを提供している会社ですが、ほかにもたくさんの会社がインターネットの技術を使ってさまざまなサービスを提供しています。当社単体で新しいことを始めようとするとうるせが重くても、一緒に組むことで入り口が楽になったり、きっかけが作れたりするような会社を探したいと思い、参加を決めました。

——協業先を選考する上で、事業内容以外にも何かポイントになったことはありますか？

想像以上に多くのスタートアップ企業から応募がありました。皆さんの熱意は強く、自社のサービスについて「これだけ素晴らしいので伸ばしていきたい！」という気持ちが伝わりました。ただ、各社とも当社との取り組み方に結構悩んでいて、提案内容に自信がなさそうなことや、面白そうではあるけれども具体化するまでに距離がありそうなケースもありました。その中で、今回データ連携したユニロボットを含め、最終選考まで残った 3 社は協業の具体的な提案までできていたことがよかったと思います。

——ユニロボットは早くも貴社と機能連携した製品を発売しています。製品に

ついて教えていただけますか？

2018年1月12日に、個人ユーザー向けのパートナーロボット「ユニボ」を発売しました。「ユニボ」は小さくてかわいらしい子どものような形で、老若男女問わず受け入れられる雰囲気ロボットです。今回は、当社の「はてなブックマーク」と「ユニボ」が機能連携しました。「はてなブックマーク」の情報を「ユニボ」からユーザーに提供する仕組みです。「ユニボ」は顔が画面になっていて、例えば「旅行のニュースを教えて」と話しかけると、関連する記事数本が画面に表示され、「1番のニュース」と声で答えるか画面をタッチすると記事が読めます。

「はてなブックマーク」はユーザーが興味を持ったインターネット上の記事をブックマークする仕組みなので、面白い記事や人々の関心が高そうな記事が分かります。「ユニボ」ユーザーは厳選された記事が読めるので、有意義に感じていただけたと思います。

——「ユニボ」での機能連携までとても早かったですが、どのように話を進めましたか？

ユニロボットのオフィスが東京で、私は普段京都にいるものですから、メールでのやり取りが多かったです。2回ほどユニロボットのオフィスに伺ったのですが、2回目のミーティングで当社が持っているデータなどについて伝えたところ、2017年12月あたりの早い段階で「デモを作ったので見てください」という連絡が来ました。「ユニボ」の発売に合わせた形です。

——ユニロボット側の反応は。

「家にロボットを置き、ロボットが情報を提供するサービス」を考えるにあたり、いい情報ソースがないか探していたそうです。マスメディアの情報などさまざまな可能性はあったと思いますが、テレビを付ければニュースが流れてきます。そうではなく、もう少し趣味や生活に近い情報かつ、そのときにインターネット上で話題の情報を提供したいと考え、最適なデータを持っている当社との連携についてご提案いただきました。

今回の「ユニボ」の機能連携では、当社から旅行、スイーツ、レシピなどの情報を提供しています。そういったコンテンツはテレビでも常に流れているわけではありません。また、テレビで話題になった情報がインターネット上にも載ることがある一方で、最初にインターネット上で話題になった情報がテレビでも

取り上げられるケースもあります。「はてなブックマーク」は話題になっている情報にいち早く気付ける点でもユーザーメリットになっています。



スタートアップとなら細部まで相談し合える

—実現までに苦労したことや難しいと思うことはありますか？

取り組み自体はシンプルにできたので、難しいことは特にありませんでした。会社の規模の差もあまり感じていません。ユニロボットはハードウェアを取り扱っている会社で、当社はどちらかというソフトウェアやサービス提供会社という違いはありますが、文化がすごく違って困ったということはありませんでした。

—ユニロボットとの連携で期待することは。

今回の取り組みが今すぐに事業的な売り上げや利益になるものではないので、ビジネスをどう組み立てていくか、引き続き考えていかなければいけないと思っています。ですが、期待することはたくさんあります。当社はテキストデータや画像データを使ってブログサービスなどを提供していますが、音声を使ったサービスはまだ提供していませんでした。ユニロボットとの取り組みを通じて、ユーザーニーズや、どういったことを人は音声を使って知りたがっているのかということが分かるかもしれません。これまで以上に、いっそう深いユーザーの利

用動向やユーザーニーズを知ることができると期待しています。大手 IT 企業も音声認識で情報を提供するスマートスピーカーを開発しているので、当社が情報を提供すれば一緒に取り組むこともできると思いますが、スタートアップ企業のユニロボットとならユーザーの利用動向やユーザーニーズも含めた細部まで一緒に相談し合えるのではないかと考えています。

—今後、自社の事業をどのように発展させていきたいですか？

当社は「はてなブックマーク」のほか、ブログサービス、Q&A サービスなど複数のコンテンツプラットフォームを運営しています。KYOTO OPEN ACCELERATOR は大手企業のリソースを活用して新規事業を創出する協業がテーマなので、当社のデータをもっと活用してもいいのではないかと考えています。そうすれば、「ユニボ」からグーグル検索やウィキペディアとは違った答えがもっと出していけると 생각합니다。

また、当社はユーザーを巻き込んだコミュニティーサービスも運営しているので、音声を利用したコミュニティーサービスのようなものがもしできる可能性があるのなら、今後考えてみたいと思っています。



(※1) KYOTO OPEN ACCELERATOR

「KYOTO OPEN ACCELERATOR(京都オープンアクセラレーター)」とは、多様な事業領域や顧客基盤、強固なブランドなどの経営資源を有する京都拠点の参加企業 4 社（京都リサーチパーク株式会社、コーデンシ株式会社、株式会社ニッセン、株式会社はてな）と、斬新なアイデアやノウハウを有する全国のスタートアップ企業とのオープンイノベーションによる新規事業創出を目的とするプログラムです。2017 年 9 月、参加企業 4 社の有する経営資源を活用した新規事業案をスタートアップ企業から募り、その後約 4 カ月間にわたる書類選考、1 次・2 次選考のプロセスを経て、参加企業 4 社とスタートアップ企業 6 社の連携に至っています。